



11/8
(2021年)
NO. 2720

THE SINGING VOICE
OF JAPAN (UTAGOE)
日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-16-36
☎03(3209)0638 FAX03(3200)0105
E-Mail:journal@utagoe.gr.jp
http://www.utagoe.gr.jp/journal/
振替口座 00120-6-5631 毎週月曜日発行



▲今、年末から来年に向けて発売される楽曲のレコーディング中の山本さん。映画、CMの作曲、編曲も

ひろしま祭典 演奏曲
「広島 愛の川」作曲、作曲家
山本加津彦氏

■祭典で「広島 愛の川」を演奏させていただきます。まず、この曲が生まれた経緯、詩との出合いかお願いします。

山本 2012年末、

中沢さんがおじぐなりになられたことを知りました。漫画「はだしのゲン」は小学生の頃、教室で何度も読んだ思い出の作品なので、改めて読み

前号に続き、祭典「コンサートヒロシママリ」で演奏される、「ひろしまの川から世界の海へ永遠の平和のひかりにむかって」「広島 愛の川」の作曲者山本加津彦氏を紹介。詩は「はだしのゲン」作者中沢啓治さん(2012年没、73歳)が未来へと遺されたもの。今年も8月6日、原爆ドーム前元安川の「どうろう流し」で歌われた。仕事で東京を離れない山本さんに寺本美和子祭典運営委員長が書面インタビュー。

遭された思いを預かつた者として



▲8月6日夕、原爆ドームの対岸で子どもたちと歌う「広島 愛の川」同プロジェクト 写真④

直しましたが、原爆の悲惨さだけではなく、その中で人としてどう生きるか、大切なことを教えてくれていました。

「あなたが作るのよ」

その半年後、毎日新聞に中沢さんの奥様の取材記事がありました。そこには中沢さんが遺した、まだ曲の付いていない詩

があること、作曲してくれる人がいないかな、と喜んでくださり、「あなたの好きな歌を読んで育った若い人が来てくれるのを待っていた」「あなたが作るのよ」と言つ

いう願いと詩の一番のみが掲載されました。

僕は当時33歳で、戦争を知らない自分が手を挙げるべきではないと思つていましたが、中沢さんが残した詩の全文を読み

ていましたが、中沢さんが詩の原文のコピーを送つてくださいました。記者の方に「奥様に会



今週の記事

4~5回 「ひろしま祭典に行こう！広島でしか体感できない3つのコンサートの魅力」

3回 本紙創刊65周年記念池辺・青木ビッグ対談⑫

連載 「時代の灯」(木津川計)／「われらニヤがの合唱ニヤン」(古沢望)／映画街／「空を見てますか」(池辺晋一郎)

7回 楽譜紹介 「あたりまえという宝物」／オーストリアからの糸電話⑩「今、日本食が注目」

8回 普天間かおりコンサート2021「やさしい時間」(12月10日)、ひろしま祭典スペシャルゲスト

てくださいました。

実は、最初に新聞で1番の詩を見た時、ピアノの前で詩を読みながら、

「中沢さんはどんな曲にしたかったのだろ？」

と、思いました。

山本 僕は大阪出身で、广島は元々縁もゆかりもなく、「はだしのゲン」を通じてでしか知らない土地でした。同じように「ヒロシマ」は多くの方にとっても、行ったことはないけれど世界中の人が知っています。ヒロシマから発信できる力が、ヒロシマへの思いがあり、この詩も同じで、涙を流しながら口ずさんだメロディが、ほとんどそのまま現在の曲になつています。

最初は著名な歌手に歌つていただき、加藤登喜子さんにお願いし、並行して、子どもたちに歌つて欲しいと思い、合唱用の楽譜を作りました。

ヒロシマだから届く平和への思い

■山本さんのヒロシマの思いは、

山本 僕は大阪出身で、广島は元々縁もゆかりもなく、「はだしのゲン」を通じてでしか知らない土地でした。同じように「ヒロシマ」は多くの方にとっても、行ったことはないけれど世界中の人が知っています。ヒロシマから発信できる力が、ヒロシマへの思いがあり、この詩も同じで、涙を流しながら口ずさんだメロディが、ほとんどそのまま現在の曲になつています。

最初は著名な歌手に歌つていただき、加藤登喜子さんにお願いし、並行して、子どもたちに歌つて欲しいと思い、合唱用の楽譜を作りました。

ヒロシマだから届く平和への思い

紀子さんにお願いし、並行して、子どもたちに歌つて欲しいと思い、合唱用の楽譜を作りました。

